



広い可能性の中、様々な巡り合わせも味方に、社会の役に立つ自分の在り方を切り拓く

佐伯 美穂 SAEKI Miho

政策統括官付国際統計管理官

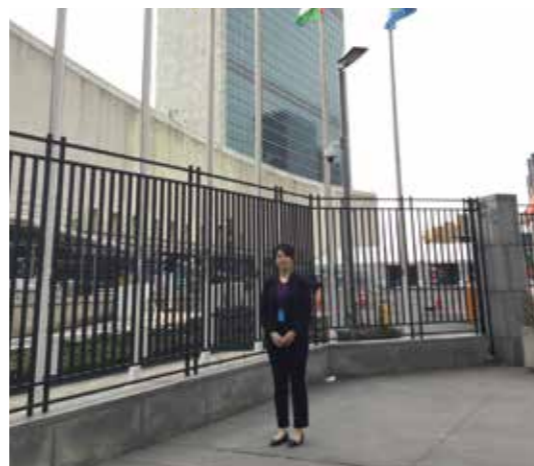
これまでのキャリアをふりかえって

これまでの経験を思い起こすと、元々関心があり、ある程度イメージを持っていた仕事もあれば、その時々々の社会の課題に対応して、入省時には想像が及ばなかった仕事に巡り合うこともありました。当時の自分にとってチャレンジだと感じることもありましたが、出会う人からの学びを大切に、一つ一つの仕事に向き合うことを通じて、「自分の強み・弱み」と「自分がやりたいこと」の両面から、視界が開け、解像度が上がったと感じる局面があり、更なる成長の必要性に気づき、努力する機会に恵まれてきたと思います。

様々な角度から社会の基盤を支える総務省では、国内外にまたがる広いフィールドがあり、現場の視点からも俯瞰的にもアプローチすることができます。こうした広い可能性の中で、巡り合わせも味方に、自分がどのように社会に役立てるかその在り方を切り拓いてみませんか。



国連アジア太平洋統計研修所の研修コースの閉講式にて、研修を修了した各国統計職員と



会議出席のため訪問した国連本部にて

2023～現在 政策統括官(統計制度担当)付国際統計管理官

公的統計に関して、国連を始めとする国際機関での基準策定等の議論や、途上国等の能力開発のための国際協力に携わっています。我が国として主張すべきは主張するとともに、統計の国際比較可能性の向上といった共通の価値に向かっていかに協調・貢献できるか、試行錯誤しつつ取り組んでいます。

2022～2023 行政管理局調査法制課法制管理室長

情報公開法等の行政の基本的な制度を担当し、制度を確実に運用できるよう取り組みました。また、デジタル化の進展等によって、行政の活動そのものや社会と行政とのコミュニケーションの形が変化し続ける中、それをよりよく支える仕組みについて俯瞰して考える貴重な機会を得ました。

2019～2021 行政評価局調査官(復興・国土交通担当)

個別の施策をテーマに、各府省の業務運営の実態を調査し、改善につなげました。国の施策の先にある様々な方々の声、現場の一つ一つの事実の重みを改めて学ぶとともに、施策を担当する各府省とは異なる立場で実効性のある改善策を提案するため、分析・課題解決力が鍛えられたと感じます。

2011～2016 国家公務員制度改革推進本部事務局参事官補佐 内閣法制局第一部参事官補

国家公務員法改正案や政府の法令解釈に携わることを通じて、社会を規律する法令やその解釈に求められる正確さ・厳密さを強く実感し、物事を論理的に突き詰めて考えることと同時に、それが社会の現状に関する具体的な理解に根差すことが必要であることを学びました。

2008～2010 留学(米国ジョージタウン大学公共政策大学院)

自分の職務経験や強み・弱みを見つめ直し、社会に役立つために今後自分に何が必要かを模索した2年間でした。多様な経験を持つ同級生との議論は気づきが多く、また、公への志が共通であることに勇気づけられました。大学院の授業はもとより、著名な方の講演や米国の政治行政の日々の動きに触れることを通じ、公務について比較の視座をもって考える機会にも恵まれました。

2005～2007 行政評価局評価監視調査官(独立行政法人第一担当)

国の様々な事務・事業の実施を担う独立行政法人の評価や見直しに取り組みました。各政策分野の専門家である各府省の考えを受け止めながら、データ等に基づいて説得的に議論することの重要性を実感しました。また、数多くの法人を扱う大きな室の中で、チームで力を発揮することの大切さを学びました。

2002～2004 行政評価局総務課政策評価審議室 人事・恩給局給与第一係

行政評価局では、新たに施行された政策評価法に基づく取組等を議論する審議会を支える立場で、部局全体や各府省の動きを見渡して仕事をすることを学びました。人事・恩給局では、国家公務員の給与法改正に携わり、政府として改正内容を検討し、法案を国会において御審議いただき、施行されるまでの一連のプロセスを経験しました。